

小学校高学年における教科担任制の充実

中核校

留萌市立留萌小学校

指定校

留萌市立港北小学校、留萌市立港南中学校

実践前の状況

- ・学級担任がそれぞれ理科の授業を担当しており、予備実験や実験準備に十分な時間をかけることが難しかった。
- ・専門的な知識を生かしながら、ICTを効果的に活用する授業づくりが難しい状況だった。

実践の概要

実感を伴った理解へとつながる実験について

- ・実感を伴った理解へとつなげるため、児童が自分事として実験に参加できるように、実験道具を豊富に揃え、どの児童も役割をもって実験ができるようにした。

- ・事前に予備実験を繰り返すことで、よりよい道具を準備し、指導ポイントを踏まえた支援ができるように努めた。

ICTの効果的な活用について

- ・実感を伴った理解につなげるため、学習内容を踏まえながらタブレット端末を活用した。問題を見いだす目的で観察物の提示をしたり、結果を整理する目的で全体の交流場面で活用したりした。



【役割をもって実験している様子】



【端末でまとめたことを発表する様子】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・指定校との連携を図りながら理科教育の一層の充実を進めた。小学校複式校との連携では、児童にとってよりよい学びが進められるように、タブレット端末内の情報を両校で共有できるようにするなど環境面での調整を図った。中学校との連携では、進学後のことを考慮し、担当教員がお互いの授業を交流する機会を意図的に設けた。
- ・学校力向上に関する総合実践事業の中核校としての取組を管内に発信するために、11月に教育実践発表会を実施した。その際、アドバイザーとして北海道教育大学の准教授を数回にわたって招き、指導案の作成や校内での指導案検討の際にも関わっていただくとともに、本校の研究についても示唆していただく機会を得た。また、実践発表会でも「語り場」と称して参加していただいた。管内の先生方と語り合う協議の時間を設定し、一緒に学ぶ機会が好評だった。

〔専科教員の取組〕

- ・児童にどのような力を身に付けさせたいのか考えながら、単元全体を見通した指導を心掛けた。
- ・よりよい実験方法や効果的にICTを使って授業が進められるように、情報収集に努めた。
- ・身に付けた知識や考え方が生活の中でどのように生かされるのかを結び付けて指導した。

成果（ ）と今後の課題（ ）

専門的な知識を生かしつつ十分な準備時間を設けて指導することで、児童の理科への興味や関心を高めることができた。

〔学校評価（児童）の「理科では結果を予想したり、友達と協力したりして授業に取り組んでいますか。」の項目について、肯定的な評価が多かった。（R5 前期：98% 後期：100%）〕

特に実験や観察後の交流の際に、実感を伴った理解へとつながるようにICTの活用を進めることができた。（授業支援アプリ「ロイロノート」の活用）

今後、児童主体の自立した学習が進められるように、授業づくりの見直しや改善が必要である。また、ICTの活用についても、児童が自分の判断で時と場合に応じて活用できるような授業に移行していく必要がある。